



学校教育を支える教職員研修の実施に向けて

富山県総合教育センター

所長 麦谷 直人

総合教育センターでは、調査研究、教職員研修、教育相談、生徒実習、教育資料の収集と提供、県立学校の事務の支援など、多様な事業を行っています。教職員研修については、若手教員研修や中堅教諭等資質向上研修などの年次研修、科学教育や情報教育、教育相談、生徒指導、特別支援教育に関する研修などを行い、教職員の資質向上を支援しています。また、校内研修活性化研修会や、研究主事が学校等に出向き実施する訪問研修を通じて、校内研修の支援にも努めています。

近年、教員の大量退職に伴い若手教員が増え、教職員の年齢構成や経験年数に不均衡が生じ、かつてのように先輩教員から若手教員への教育理念や指導技術の継承がうまく図られていない状況があるとされています。また、知識基盤社会の到来など、社会が急激に変化する中で、学習指導要領の改訂に伴う教育課程や授業の改善、いじめや不登校への対応、特別支援教育の推進など、教育現場は多くの課題を抱えており、学校が直面する課題に適切に対応できる実践的な指導力を有する教員の育成が課題になっています。

平成27年12月の中央教育審議会の答申を受け、教員養成や研修体制の整備を趣旨として、教育公務員特例法の一部が改正されました。教員育成指標の整備と10年経験者研修の見直しが主な内容です。県教育委員会は、教員のキャリアに応じて求められる資質を確認し、生涯にわたって学び続ける教員が育つことを目指した、教員育成指標を策定するとともに、11年次教職員研修を見直し、今年度から中堅教諭等資質向上研修を実施しています。

この研修は、学校内のミドルリーダーの育成をねらいとし、採用されて7～11年次の教

職員を対象に実施するものです。研修のねらいを踏まえ、組織マネジメント研修や年次交流研修を行います。とりわけ年次交流研修は、10年次教員と2年次教員が校種別のグループに分かれ、2年次教員が作成した資料をもとに、学級運営や学習指導などについて研究協議を深めていきます。10年次教員は進行・助言役として2年次教員の実践上の悩みなどを引き出しながら、自らの経験を踏まえ助言します。受講者アンケートからは、2年次教員が同年代の協議からは得られない学びの深まりを感じていることや、理想とする教員像について意識している様子が伺えます。一方、10年次教員は若手教員の頑張りに触発され、これまでの教員生活を振り返り、ミドルリーダーとしての自覚と責任感を高める機会になっているようです。また、勤務校のミドルリーダーとして教育活動に取り組むための資質能力の向上にもつながっていると考えています。

私自身の経験から、センターの集合研修では、教育の動向や新しい知識・技術を効率的に学び、また受講者の情報交換から多くの刺激を受けました。一方、勤務校では、先輩教員などから教材研究や学級経営などについて具体的に学ぶとともに、教員の仕事に向かう姿勢などから、理想とする教員像を追究してきました。

「教員は学校で育つ」と言います。これからも学校や教員を支えることができるよう、学校や教員の立場に立って、研修ニーズをしっかりとつかみ、教職員研修の充実・改善に努めていきたいと考えています。